

研究主題

主体的・協働的な学びを通して、思いや考えを深める児童の育成

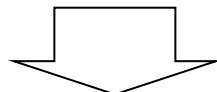
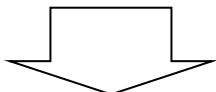
高学年（第6学年）授業解説・提案資料

児童の実態

6年生になり、主に国語の授業で児童が学習計画を立てたり、個別の学習課題を設定したりする機会を増やしている。クラス内の男女比は、1：2で女子の方が多いが、校内で研究した「話す・聞く」の学習をいかし、授業中における話し合い活動では、男女関係なくそれぞれの思いを伝える姿が見られる。体育学習の中で単元を通して各チームの課題解決に取り組むという経験はあまりなく、本単元では単元を通してチームの課題を一人一人が考え、チームで話し合い、練習を実行し、改善していくという経験を積むことで学習への意欲を高めていきたい。

児童に付けたい力（指導事項）

- 片手、両手を使って、ボールを操作する。
- 適切な場所へ動いて、ボールをつなぐ。
(ボールを持たない時の動き)
- 課題解決のために、自己や仲間の考えたことを他者へ伝える。
- ゲームや練習の中で、動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考え方や取組を認めること。
- ルールやマナーを守り、仲間と助け合う。

目標児童像 分科会テーマ
伝え合いを通して、考え方を見つめ直す児童の育成

テーマに迫るために（年間を通じて意識的に取り組む手立て）※本単元についての手立ては後述する。

- ・各単元で指導事項を明確化し、その項目を重点的に指導する。

	教材名	指導重点事項	活動
6月	陸上運動 「リレー」	チームに適した作戦を（話し合い）選ぶ。	練習の場を工夫して作ったり、選んだりしながら、チームごとに練習に取り組む。
9月	器械運動 「マット」	課題解決のために、自己や仲間の考えたことを、他者に伝える。	グループで同時に同じ技を行うために、話し合い練習を進めていく。
10月	陸上運動「走り高跳び」	自己やグループの能力に適した課題を見つけ、課題に応じた練習を選択し行う。	グループで課題に応じた練習の場を設定し、取り組む。
11月	ボール運動「ソフトバレー」	課題解決のために、自己や仲間の考えたことを他者へ伝える。	チームの課題を見つけ、解決するために練習を考えたり、行ったりする。

第6学年体育科学習展開案

令和2年11月20日（金）第5校時
杉並区立高井戸第二小学校 6年4組29名
授業者 主任教諭 福田 浩希

1 領域名 ボール運動 ネット型ゲーム（全8時間）

単元名 ソフトバレー・ボール

2 単元の目標

【知識及び技能】

- 運動の楽しさや喜びを味わい、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすることができる。

【思考力、判断力、表現力】

- ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦や練習方法を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考え方や取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。

3 単元の評価規準・単元に即した具体的評価規準

観点	ア 知識及び技能	イ 思考・判断・表現	学びに向かう力 【主体的に取り組む態度】
単元の評価規準 (ネット型のボール運動)	・簡易化されたゲームで攻防するためのボール操作やボールを持たないときの動きを身に附けています。	・チームの特徴にあった練習方法を選んだり、作戦を立てたりしている。 ・課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えるようにしている。	・運動の楽しさを味わうために進んで取り組もうとしている。 ・ゲームや練習の中でルールやマナーを守り、仲間の考え方や取組を認めている。 ・ゲームや練習の際に、場の設定や用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配ろうとしている。

学習活動に即した具体的な評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動している。 ・味方が受けやすいボールをつないでいる。 ・片手を使って、相手コートに返球している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの特徴に応じた攻め方をしている。 ・自分のチームの特徴にあつた作戦を選んでいる。 ・自分や仲間の考えたことをチーム内で伝えている。 ・自分のチームの課題にあつた練習を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール運動に進んで取り組もうとしている。 ・ルールを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ・仲間の考えや取組を認めようとしている。
-------------------------	--	--	---

4 学びの構造転換に向けた単元の構成

(1) 学習材について（運動の特性について）

〈構造的特性〉

2つのチームがネットを挟んだコートで相手チームとボールを打ち合い、集団対集団で得点を競い合う運動である。

手でボールを打つ、レシーブ・パスなどの技能によってゲームが左右されるが、ボールをはじく動きがあるため思い通りにコントロールすることが難しい運動である。

〈機能的特性〉

ネットによってコートが分かれ、相手との入り交じりがないため、自分たちの作戦通りに攻め方を考えながら取り組むことが楽しい運動である。

ボールに対する恐怖心がある児童や技能的に苦手意識をもっている児童でも、柔らかいボールを使用したり、規則を工夫したりすることで精一杯運動することができ、楽しめる運動である。

手でボールを内、レシーブ・パス等で味方につなぎながら相手コートに返し、ラリーを続けていくと楽しい運動である。

〈効果的特性〉

ソフトバレーのボールを通して、落下点や打ちやすい位置へ移動する動きを身につけることができる運動である。

ボールに対応した動きを身につけることで、巧緻性・敏捷性を身につけることができる運動である。

みんなが楽しめるゲームになるように規則を考えたり、攻め方を身につけたりすることで、協力したり励まし合ったりする態度を養うことのできる運動である。

勝敗を受け入れ、フェアプレーなどの経験を通して公正・公平に行動しようとする心情と態度を養うことのできる運動である。

(2) 学習者について

6年生になり、主に国語の授業で児童が学習計画を立てたり、個別の学習課題を設定したりする機会を増やしている。また、昨年度の校内で研究した「話す・聞く」の学習をいかし、授業中における話し合い活動では、男女関係なく、それぞれの思いを伝える姿が見られる。体育の授業では、安全に素早く動くやチームで話し合うなど基本的な行い方やルールは入っている。しかし、本単元のような、各チームで単元を通して課題を見つけ、練習計画を立て、実行するという流れは経験がない。ドリルゲームやメインゲームを通して、チームの課題を一人一人が考え、チームで話し合い、練習を実行し、改善していくという経験を積むことで学習への意欲を高めていきたいと考える。

(3) 研究主題に迫る手立て

①チーム編成の工夫

今までの体育のチーム編成は、教師が運動経験や技能面、リーダー性や人間関係等、様々な視点で考慮して行ってきた。本単元では、より児童の「自己選択・自己決定」の機会を増やし、より意欲を高めて学習に向かうことを目的として児童と共に考えることにした。学習に入る前に、今までの学校での運動経験や、他教科の学習の様子、普段の人間関係をふり返り、チーム編成に関するアンケートを実施した。その回答を生かしながらチーム編成を行った。アンケートでは、「一緒にチームでがんばれそう、うまくなれそうな人」を男女各3人、「リーダーになってほしい人」1人を回答させた。

回答からリーダーを選出し、なるべく希望に叶う編成になるようにしている。配慮面としては、最低限の人間関係と、技能面の偏りの内容に考えている。

②個人やチームごとの課題解決

本単元ではチームの課題に対する練習を計画し進行していく時間を設けている。課題は、チームでドリルゲームやメインゲームを通して、自分たちでチームの課題を見つけている。又は、個人の課題をチームの課題として捉えている。それを解決していくにはどのような練習をすればよいかをチームで考えさせた。そして、その練習が効果的であったかどうか、新たな課題などを考えさせてすることで、児童の主体性と多様性を広げていくことにつながると考えた。また、1時間の授業の流れを子どもたちと決める機会を設けた。活動のメインとなる「チーム練習」と「メインゲーム（2試合）」をどの順番で行うかを児童に考えさせ、毎時間入れ替えながら進めた。そうすることで、チームの課題を解決するには、どのようにすればよいかを児童自ら考えるようになり、より意欲をもって授業に参加すると考えた。

③言葉かけの意識

児童から出た言葉を「4組キラッとワード」に記録していった。本単元では、普段の体育授業でも意識させる「励ましの言葉」や「技能的なアドバイス」だけでなく、「準備や片づけの言葉」、「話し合いの言葉」も加え、4つの言葉を視覚的に意識させて活用できるようにした。学級で「キラッとワード」を増やしていくことが、友達との教え合いや認め合いをより活発にしていくことにつながると考えた。また、教室にも掲示することで、体育の時間だけでなく、日常的にも言葉を意識して使えるようにした。

6 本時の指導 (5／8時)

(1) 本時のねらい

チームの特徴に応じた作戦や練習を選ぶことができる。

(2) 展開

時	学習内容・活動	○支援 ☆評価												
0	1 整列・あいさつ 2 本時の学習の確認	○学習内容を確認し、見通しをもって学習活動ができるようにする。												
	チームに必要な練習を行い、試合にいかそう													
5	3 準備運動・ボール操作の運動 4 ボール慣れの運動（円パスゲーム） ○チームで広い円をつくる。 ○時間内に何回落とさずに連続してパスがつながるかを競う。 5 場の準備	○ゲームでよく使う部分を中心に準備運動を行う。 ○ボールの下に入ってトスするなど、よい動きに対して、声をかける。												
15	6 チーム練習話し合い※練習～ゲームは順番変更の可能性有り ↓ チーム練習 Aパターン Bパターン Cパターン チーム練習 ゲーム ゲーム ゲーム チーム練習 ゲーム ゲーム ゲーム 7 メインゲーム <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">舞台側</th> <th style="text-align: center;">入り口側</th> </tr> <tr> <td>ゲーム1</td> <td style="text-align: center;">緑一水（青）</td> <td style="text-align: center;">黄一赤（橙）</td> </tr> <tr> <td>ゲーム2</td> <td style="text-align: center;">青一橙（水）</td> <td style="text-align: center;">赤一緑（黄）</td> </tr> <tr> <td>ゲーム3</td> <td style="text-align: center;">黄一橙（緑）</td> <td style="text-align: center;">青一水（赤）</td> </tr> </table> ゲームのルール ①3人対3人（チームは4~5人。ローテーション） ②時間制（1ゲーム4分） ③サーブから始める。（下から） ④3タッチ。（1人1回まで） ⑤キャッチあり。（1人目のみ）		舞台側	入り口側	ゲーム1	緑一水（青）	黄一赤（橙）	ゲーム2	青一橙（水）	赤一緑（黄）	ゲーム3	黄一橙（緑）	青一水（赤）	○素早く動き出せるよう、自分たちの場を視覚的に分かるようにしておく。 ○話し合いの際、前時での課題に対する練習ができるように、声をかける。 ☆自分のチームの課題にあった練習を選んでいる。（話し合い・カード） ※A・B・Cは当日、子どもと話して流れを決めます。
	舞台側	入り口側												
ゲーム1	緑一水（青）	黄一赤（橙）												
ゲーム2	青一橙（水）	赤一緑（黄）												
ゲーム3	黄一橙（緑）	青一水（赤）												
35	8 用具の片づけ	○振り返りの時間に負けているチームには、よい動きのアドバイスを行う。 ○次のゲームに向けて考えて取り組めるよう、試合と試合の合間に、チームの課題に対して効果的な練習ができたグループの取組を全体で共有する。 ○役割を明確にし、安全に行えるようにする。												
45	9 整理運動 10 振り返り 練習計画・進行表への記入を行う 11 整列・あいさつ	○運動で使った部位をほぐすよう声をかける。 ○チームでできしたことや、良かった練習を全体で共有する。 ○次時で頑張りたいことなどを発表させ、次時への取組をイメージできるようにする。												